

◆主な製品化事例のご紹介

昭和 60 年度 ～ 平成 10 年度

昭和 60 年(1985)

□快削性セラミックス「ホットベール」

概要： 切削加工が困難とされていたセラミックス素材について、旋盤、マシニングセンタなどの工作機械で容易な加工を可能としました。工業試験場では、微細加工に適した材料の開発を行いました。

実績： 電気絶縁性、断熱性に優れているため、半導体製造装置用部品、レーザー装置部品、液晶製造装置部品等幅広い分野の装置部品として採用されています。(特許出願済)

開発企業： 株式会社フェローテックセラミックス
(旧ホトンセラミックス株式会社)



昭和 63 年(1988)

□高強度給食用九谷焼食器

概要： 学校給食を九谷焼の器で楽しんでもらおうと、九谷焼試験場（現：工業試験場九谷焼技術センター）が高強度磁器のハイ土製造と成形・焼成技術を開発し、石川県九谷窯元工業協同組合が製造した給食用九谷焼食器です。

実績： 小松市を中心に県内外の約 100 件の小中学校や給食センターなどに納入されました。現在も、補充等で納入されています。

開発企業： 石川県九谷窯元工業協同組合



平成 3 年(1991)

□透光性磁器

概要： 九谷焼試験場（現：工業試験場九谷焼技術センター）で、従来素地の約 10 倍の透光性を有し、白く、強い九谷焼のハイ土と成形・焼成技術を開発しました。

実績： 実用化に向けた研究段階から製土所や窯元が参加し、ハイ土製造技術は、谷口製土所に技術移転され、製造・販売されています。また本製造技術は、妙泉陶房ほか多くの窯元や作家に普及し、数々の美しい製品作りに生かされています。

開発企業： 谷口製土所
妙泉陶房ほか



透光性磁器のハイ土(谷口製土所)



平成 2 年に行われた天皇陛下即位の礼の饗宴の儀ご使用食器（妙泉陶房）



平成 12 年、日本政府から国際度量衡局に贈呈された大皿（直径約 60cm）（妙泉陶房）

□九谷焼テーブルライト

概要：九谷焼試験場（現：工業試験場九谷焼技術センター）が開発した透光性磁器のハイ土製造と成形・焼成技術を使い、九谷焼技術研修所が工業デザイナーや九谷焼関係者らと共同で開発したテーブルライトです。

実績：透光性と高級感を漂わせたデザインで、エコロジーをテーマに葉、魚、蝶などの上絵が施され、スタンド型、球型など約 30 種類が商品化されました。

開発企業：石川県九谷窯元工業協同組合



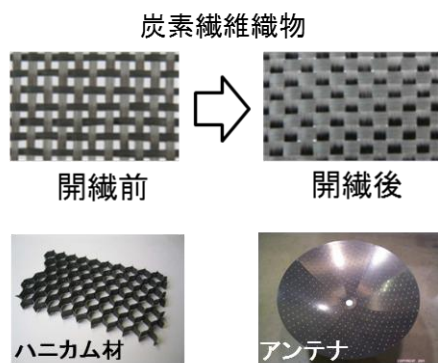
平成 5 年 (1993)

□ピッチ系炭素繊維開織織物「グラノッククロス」

概要：軽くて高性能な複合材料を実現するため、炭素繊維織物の糸を開織させて幅を広げることで織物の厚さを薄くする技術を開発しました。

実績：炭素繊維開織織物を用いた複合材料は主にハニカム材に加工され、人工衛星のリフレクタ（アンテナ）やソーラーパネルに利用されています。現在では、全人工衛星の 30～40% に搭載されています。

開発企業：株式会社エマージ（技術移転先）
日本グラファイトファイバー株式会社
（グラノッククロス販売元）



平成 10 年 (1998)

□「クリーンデュエット」及び関連製品「エコプランター」

概要： 鋳物工場から排出される集塵ダストと、下水汚泥焼却灰をリサイクルした、水質浄化能力のある多孔質セラミックス製品です。工業試験場では、多孔質製造技術の指導と実証試験を行い、製品化を支援しました。

実績： 池の濾過、水槽の濾材として販売され、いしかわ動物園などに導入されました。

開発企業： 株式会社アクトリー



□繊維くず固形燃料 RPF システム「EFPシリーズ」

概要： 繊維くず（糸や縫製くず等）と紙を粉砕しながら圧縮成形する固形燃料（RPF）製造システムです。工業試験場では、繊維くずと紙管による固形燃料の実証化試験を織布工場で実施しました。

実績： 県内外の繊維製品販売企業において、排出された繊維くずを固形燃料として有効活用するために使用されています。

開発企業： 株式会社アースエンジニアリング

